

令和4年度の研究(または活動)内容

2022年度も新型コロナウイルス感染症予防と拡大に伴い、人々の生活意識や行動の変化、教育や働き方、連携や交流のありかたなど、社会の変化に合わせた活動や調査が求められた。

そこで、with コロナ、after コロナを考慮した活動や研究を行った。具体的には、情報弱者の高齢者や障害のある方への支援、支援の届きにくい地域の課題、インターネットを活用した広域のネットワーク構築や継承の課題に取り組んだ。また、これまで同様、まちづくりやコミュニティ形成に関する課題に対し、持続可能な自律したまちづくり活動の推進事業に取り組んだ。

1) 仙台市八木山地域を中心とした活動

・「仙台八木山防災連絡会」

SUNTORY 東北サンさんプロジェクトみらいチャレンジプログラムに「若者や子育て層の力引き出した地域防災・地域づくり体制構築」のテーマで助成を受け、地域支援活動調査から「自助互助ケアパス-この町で私の一役-」を八木山連合町内会と八木山南連合町内会に全戸配布を行った。また障害がある方を地域でサポートすることを発信するためのケアパス作成に向けて調査を実施した。

・「八木山まちづくりプロジェクト」

八木山地域には、並河氏や川名氏、建築学科不破研究室などが作成してきた「まちなか歩数表示板」が7コース設置されている。この歩数表示板の有効活用について、コロナ禍を意識した屋外交流と環境整備活動「八木山ハーブまちづくり」と併せて検討した。また、新たに三神峯ルートや緑ヶ丘ルートへの歩数表示板を学生と住民とでコース選択やデザインを行い設置した。コロナ禍で中断していた多世代交流イベント「みんなのカフェ」を2023年1月より再開し、高齢者のスマートフォン利用の課題解決に向けた活動を実施した。それに至る前には、八木山市民センターや八木山地域包括支援センター、山口氏と実施した「スマホ教室」(2022年6月から10月)で学生らと現状やニーズ調査を行った。

・「八木山テラス(金剛沢緑地愛護協力会)」

本研究所と学生が参画する金剛沢緑地保存協議会が行う『八木山テラス』の整備において、公益財団法人都市緑化機構が主催する「緑の環境プラン大賞」シンボル・ガーデン部門において最高位となる国土交通大臣賞を受賞した。「緑の環境プラン大賞」は緑の持つヒートアイランド緩和効果、生物多様性保全効果等を取入れることにより、人と自然が共生する都市環境の形成、および地域コミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ地域のシンボリックな緑地プランを表彰するものであった。

・「ございん八木山」

井上氏が代表を務める「ございん八木山」と菊地教授と伊藤で協議を重ね、「2023年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」を申請し、2023年4月から事業を開始することとなった。地域の拠点づくり、拠点でのイベント開催や環境整備に向けて、学生らとの意見交換も実施した。主に伊藤研究室の3年生が参加し、次年度は卒業研究でも取り組む予定である。

2) 仙台市秋保地区を中心とする活動

・「野尻いぐる会(野尻町内会)」

2022年度は、新種の桜を活かした桜イベントからスタートした。高齢化率の高い地域での住民活動のためメンバーの高齢化や後継者、方向性や実施内容などの課題について、住民と秋保総合支所、本研究所で定例打ち合わせを行った。高齢化率の高い地域のため、感染予防を厳守しつつ、with コロナ時代を見据えた地域内外交流事業を、身の丈に合った持続可能な活動となるよう意識しながら交流活動を再開し始めた。

・「秋保くらしの座談会」

仙台市秋保地区では、急速な少子高齢化の進行に加え、家族や地域住民のつながりの希薄化、自然災害への対応など、社会問題の複雑化が進む中、2022年度より仙台市社会福祉協議会太白区事業所と秋保総合支所保健福祉課と連携し、秋保地域住民の抱える課題を住民と支援機関が共有し、その解決のために住民が主体的に共に取り組めることを考える事業を開始した。「秋保くらしの座談会」では、馬場連合町内会、秋保連合町内会、湯元連合町内会ごとに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、秋保地区の現状や課題(いいところや困りごとなど)を話し合い、自分たちが「住み続けたい」と思う地域の将来像を考え、それに向かって実践できることについて話し合った。ワークショップには毎回複数の学生が参画し、次年度卒業研究として検討する学生もいた。

3) 登米市津山町「道の駅津山もくもくランド」を中心とする活動

「道の駅津山もくもくランド」を管理する協同組合もくもくランドは、登米市から指定管理者である。この道の駅は、令和元年東日本台風による豪雨被害を受け、2022年まで仮店舗で営業していた。建物の修繕及びかさ上げ工事等終了に伴い、2023年1月に元の店舗での営業再開予定であった。新店舗は、組合員である津山木工芸品事業協同組合及びつやま産直事業協同組合等入居団体の一体的な売り場を目指しており、レジの一本化や店舗レイアウトなど様々な角度から検討を加え、より良い組織運営の在り方を構築できるよう、宮城県中小企業団体中央会からの依頼を受け本事業を実施した。

4) 石巻市雄勝町を中心とする活動

雄勝に関しては震災時当時からプロジェクトチームを結成し、様々な人的物的支援を現在も継続して行っている。本年度は、雄勝硯生産販売協同組合に対しては、雄勝で実施した「文房四宝」への参画や経済産業省への産業推進事業採択に向けての計画づくりを実施してきている。

また、SUNTORY 東北サンさんプロジェクトみらいチャレンジプログラム助成基金の採択による雄勝石のブランド化を目指した活動(主に石採掘に関する事)と「道の駅硯上の里おがつつ」の運営組織事業の新たな姿を描くための推進会議を地域連携センターとの協働で実施してきている。

5) 地場産品・地域づくりの活性化・継承に関する活動

・秋岡氏/時松氏の思想を継承する展示会やシンポジウムとみやぎ地場産品開発流通研究会展示会

「時松辰夫追悼記念展示会～秋岡芳夫・時松辰夫 次世代に繋げる想いと技～」は地域連携センターと共催で2023年2月24日(金)～2月28日(火)に岩手県洋野町(大野木工)、北海道置戸町(オケクラフト)、アトリエとき(大分県湯布院町)他の展示会を行った。開催時にはオンラインシンポジウム「秋岡芳夫・時松辰夫の足跡と思想から学ぶー『これからの地域のくらしと工芸』」を行った。

2023年3月3日(金)～3月7日(火)には、「宮城を代表する工芸産地が連携 みやぎ地場産品開発流通研究会 紹介展～工芸品をくらしの中に～」の展示会を行い、宮城を代表する工芸産地の雄勝、津山、岩出山、秋保の工芸品を紹介した。

・時松辰夫先生継承協議会

2022年5月より『アトリエときデザイン研究所』継承協議会の設立に向けて動き始め、菊地良覚特命教授が中心メンバーとなっている。時松氏の拠点、大分県湯布院町に「アトリエときデザイン研究所」として現在も存在しているが、これからの本研究所のあるべき姿を時松氏の親類縁者と弟子たちは検討を重ねた結果、研究所を継続する方向で共通認識としている。そこで、『アトリエときデザイン研究所』(仮称)継承協議会の設立に向けて、時松氏が関係した地域自治体や大学関係者も交え、その可能性を探ることとしている。今年度は、『アトリエときデザイン研究所』継承協議会の設立に向けて、時松

氏との関係があった親類縁者や弟子及び関係機関(大学・公設機関・個人等)による設立に向けた共通認識の合意形成を行うことを目的にオンラインでの意見交換を行った。2022年度のオンライン会議は、第1回(5月25日)、第2回(6月)、第3回(7月15日)、第4回(8月25日)、第5回(9月22日)、第6回(11月17日)、第7回(12月22日)、第8回(2023年1月27日予定)と開催され、時松氏に関する研究に取り組む学生らも参加した。

6) シンポジウムなどの開催

・『IT技術とそのデザイン-SDGsの視点から-ZIMA』開催(2022年9月12日)

ジーマデザイン代表の中島敏元教授による一番町ロビーでの展示会「ナカジマサトシとその仲間」開催と、それに関連したオンラインワークショップ「IT技術とそのデザイン-SDGsの視点から-ZIMA」を実施した。

・第8回東北工業大学2021製品安全シンポジウム開催(2022年11月19日)

中島敏実行委員長のもと「安全(製品安全・消費者安全)とSDGs」のテーマで開催した。目標12「つくる責任・つかう責任」に着目し、パネリスト6名(学生含む)より話題提供をいただき、その後、持続的社会的な社会構築を目指す社会において、環境負荷軽減、働き方改革、消費者教育など意見交換を行った。

7) その他:地域や企業からの問い合わせに応じた活動や調査、相談対応など

- ・「道の駅津山もくもくランド」は、令和元年東日本台風による豪雨被害を受け、建物の修繕及びかさ上げ工事等終了に伴い、2023年1月に元の店舗での営業再開予定であった。宮城県中小企業団体中央会からリニューアルオープンに向けた店舗の空間デザインや運営方法についての依頼を受け本事業を実施した。
- ・昨年2021年に仙台市若林区保健福祉センターより「健康で元気に暮らせる町 六郷を目指して」に関する相談を受け、2022年は六郷小学校5年生3クラスにてワークショップを開催し、小学生の学びについてまとめた。2023年度も引き続き実施予定である。
- ・太白区社会福祉協議会と秋保総合支所保健福祉課、秋保地域包括支援センターより、地域住民から見えている地域課題の把握、住民主体で地域課題に取り組めるように導く手法について相談あり、今年度の事業に協力した。
- ・仙台市公民館運営審議会の委員として、市民センターの事業をよりよく推進するため調査・審議を行い、学校教育、社会教育、家庭教育の関係者及び学識経験者により構成されたメンバーで、様々な視点から活発に意見交換をグループ討議も取り入れて議論を深めている。
- ・仙台市教育局生涯学習支援センター事業係より、市民センター市民参画型事業「成果報告会」(大人・子ども・若者の3事業の成果報告会)での講評を行う。
- ・八木山地区社会福祉協議会の「小地域ネットワーク研修会」にて自主的で継続的な具体的な地域活動について講話をする。
- ・一般社団法人減災サステナブル技術協会より「減災サステナブル技術アイデアコンペ2023」の応募の依頼があり、畠山教授の研究室で応募し受賞する。
- ・仙台市減災推進課より学生SBLの活動や方向性について相談があり、八木山フェスタや防災キャンドルナイトなどで活動協力をする。
- ・2023年度仙台市安全安心街づくり推進会議の委員について依頼があった。
- ・一般社団法人ございん八木山より、今後の地域住民のための主体的で持続可能な施設運営について相談があり、学生らとワークショップを実施するなどして、「2023年度地域づくりパートナープロジェ

「外推進助成事業」に申請し、2023年4月から事業を開始することとなった。

4. 申請時の研究(または活動)計画概要に対する ①達成状況、②課題 を記述してください

① 達成状況

2022年度もコロナ禍で中止や予定を変更して実施することも多くあったが、その都度、研究所と関係する機関や個人の課題を確認しつつ、一步一步解決の途を探るための具体的な活動を実行してきている。また、その都度、新たな次年度に向けた課題の整理を行っている。

(1) 仙台市八木山地域(高齢化の進む丘陵地形の住宅地)を中心とする活動

With コロナ時代を意識し、助成金の獲得などをしながら、「仙台八木山防災連絡会」、「八木山まちづくりプロジェクト『八木山ハーブまちづくり』『八木山みんなのカフェ』」、「八木山テラス(金剛沢緑地愛護協力会)」、「動物公園駅東口花壇の整備(動物公園駅前ガーデン愛護会)」などの活動と研究は継続して行っている。さらに、障害のある方のサポート方法やシニア世代のオンライン活用推進などの企画も検討し活動も始まった。今後は、after コロナ時代の健やかな生活、地域の交流や連携など活動を通じて研究に取り組む。

(2) 仙台市秋保地域(高齢化と人口減少の進む仙台市西部地区)を中心とする活動

超高齢化の集落の野尻町内会「野尻いぐする会」も5年目となり、週末の飲食「ばんどころ」の開業や各種イベントの開催などこれまでの運営を振り返り、今後の会のあり方や継続について検討した。

また今年度は、医療福祉系の専門家らによる秋保地域全体のまちづくりの方向性や手段について相談があり、秋保全体の活動や研究に広がった。馬場・湯元・秋保地区にそれぞれで住民らとワークショップを実施し、秋保全体の地域課題を共有する機会をもった。2023年度以降は、各地区の特徴を活かした住民主体の活動を助言しつつ、研究につなげる。

(3) 石巻市雄勝町(現在復興工事中、人口減少する東日本大震災の被災地)を中心とする活動

雄勝硯生産販売協同組合との「仮称」雄勝いしのわ会議+(プラス)」の実施を予定するも、組合の変革期でもあり、今後、採石や人材育成、組合運営など意見交換の継続が望まれる。

一方で「道の駅硯上の里おがつ」の運営組織事業の新たな姿を描くための推進会議を地域連携センターとの協働で実施しており、今後も継続していく。

(4) 登米市津山町(令和元年東日本台風の被災と交流人口減少等の課題を抱える地域)での活動

2023年1月の「道の駅津山もくもくランド」リニューアルオープンに向けた支援を行った。今後、この施設は地域内外の個人や団体が連携し、地域の拠点となる施設づくりが望まれるため、学生らと活動や研究のフィールドとして関わっていく。

② 課題

2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、地域交流活動や研究活動は人数を限定、感染予防対策を十分に取っながら行い、学生参画や研究遂行には困難をきたしたものの、地域の状況に合わせて取り組むことができた。共通課題として「after コロナ時代」の新しい生活様式に向けた課題と同時に、それまで地域が抱えていた少子高齢化・人材育成・次世代継承・事業推進など課題が顕著に表れており、地域や団体の特徴をとらえた「ヒト・コト・モノ・場」づくりが必要である。引き続き、個人や団体の連携や共創のあり方、それぞれの取り組みを自律した持続的なものにする必要があり、人や地域が潜在する力を丁寧に引き出すために、大学教員と学生が関わる必要がある。

5. 令和4年度の外部資金の応募・獲得状況

- ① 科研費等競争的外部資金(国・公的機関・民間の財団等、公募での競争的資金)
- ② 共同研究・受託研究・奨学寄附金等(公募での競争的資金で無いもの)
 - ・宮城県中小企業団体中央会「令和4年度組合再生(活性化)支援事業」
 - 「道の駅津山もくもくランド」の新規オープンにあたり、協同組合もくもくランドの将来を見据え、健全で安全な運営、組織運営の継続性を確保しながら、更なる活性化を図ることを目的とした事業

6. 成果指標 (KPI)

- ①論文数 (1本/令和4年度)
 - ※うち査読付き論文 本/令和4年度
 - 内容(論文リスト):
 - ・河内聡子 「立ちどまった工業デザイナー」秋岡芳夫の理念と活動—高度経済成長期の工業デザインの課題を背景として考える—(付・関連年表)」、東北工業大学紀要第43号
- ②学会発表等 回/令和4年度
 - 内容:
- ③本学教員の参画者数 (5人/令和4年度)
- ④参画学生数 (44人/令和4年度)
 - ※うち院生 3人/令和4年度
 - ※うち学部生 41人/令和4年度
 - ※うち大学院進学者見込数 0人/令和5年4月進学予定
- ⑤実用化件数 (件/令和4年度)
 - 内容:
- ⑥地域・企業からの問い合わせ件数 (9件/令和4年度)
 - ※うち企業からの問い合わせ件数 0件/令和4年度
 - ※うち自治体・団体等からの問い合わせ件数 9件/令和4年度
 - ※ 1案件につき1件でお願いします。
- ⑦その他の成果
 - (外部資金関連(応募、採択)、特許関連(出願、特許化、実施許諾等)、広報関連(メデ

ィア掲載、シンポジウム開催等) 等

外部資金関連

・SUNTORY 東北サンさんプロジェクトみらいチャレンジプログラム

「若者や子育て層の力引き出した地域防災・地域づくり体制構築」のテーマで助成

(仙台八木山防災連絡会) 伊藤美由紀、菊地良覚、並河浩一、山口茂、松永なおみ 他

・仙台市まちなか歩数表示補助事業

(八木山まちづくりプロジェクト) 並河浩一、川名美宏、伊藤美由紀、菊地良覚、松永なおみ、山口茂、庄子奈々絵、八木山連合町内会、八木山地区老人クラブ 他

・令和4年度 太白区地域福祉活動積立金活用事業

(八木山まちづくりプロジェクト；八木山ハーブまちづくり活動/八木山みんなのカフェ)

八木山地区社会福祉協議会、伊藤美由紀、菊地良覚、並河浩一、山口茂、坪子典明、小嶋三男、須藤将仁、松永なおみ(八木山地域包括支援センター)、八木山市民センター 他

・太白区まちづくり活動助成事業

「だれもが行きたくなる“まち”づくり ―「八木山テラス」構想―

(金剛沢緑地愛護協力会(八木山テラス)) 伊藤美由紀、菊地良覚、須藤将仁、菊地宣広、高橋良雅、坪子典明、並河浩一、山口茂、松永なおみ、小嶋三男 他

受賞

・公益財団法人都市緑化機構主催「緑の環境プラン大賞」シンボル・ガーデン部門

国土交通大臣賞受賞

(金剛沢緑地愛護協力会(八木山テラス)) 伊藤美由紀、菊地良覚、須藤将仁、菊地宣広、高橋良雅、坪子典明、並河浩一、山口茂、松永なおみ、小嶋三男 他

広報関連 (メディア掲載、シンポジウム開催等)

- ・「八木山ハーブまちづくり活動」が tbc 東北放送ラジオで中継された(2022年6月18日)。
- ・『IT 技術とそのデザイン-SDGs の視点から-ZIMA』開催 (2022年9月12日)
ジーマデザイン代表の中島敏元教授による一番町ロビーでの展示会「ナカジマサトシとその仲間」開催と、それに関連したオンラインワークショップ「IT 技術とそのデザイン-SDGs の視点から-ZIMA」を実施した。
- ・第8回東北工業大学 2021 製品安全シンポジウム開催 (2022年11月19日)
中島敏実行委員長のもと「安全(製品安全・消費者安全)とSDGs」のテーマで開催した。目標12「つくる責任・つかう責任」に着目し、パネリスト6名(学生含む)より話題提供をいただき、その後、持続的社会構築を目指す社会において、環境負荷軽減、働き方改革、消費者教育など意見交換を行った。
- ・令和4年度「地域未来学」: 講座23 (2022年12月6日)

河内聡子講師による「クラフト」による持続可能なものづくり・まちづくり」

以上